

札幌市 IoT イノベーション推進コンソーシアム ICT 活用普及促進部会
平成 30 年度 第 3 回 定例部会
EDI で加速する経営のイノベーション (PART2) 実施報告 (抄)

開催日：2019 年 3 月 8 日 (金) 14 : 00~16 : 30

場 所：札幌市産業振興センター 産業振興棟 2 階 セミナールーム A

主 催：一般財団法人さっぽろ産業振興財団

共 催：札幌市 IoT イノベーション推進コンソーシアム

後 援：札幌市、特定非営利活動法人 IT コーディネータ協会、北海道 IT コーディネータ協議会

参加者：32 社 54 名

プログラムと内容概略 (以下、敬称略)

1 主催者挨拶



一般財団法人さっぽろ産業振興財団 情報産業振興部 IT 推進課長
山下 幸修

2 【講演 1】「商流 EDI & 金融 EDI による生産性向上の検証と展開」

～中小企業庁委託事業：中小企業金融 EDI 実証検証事業について～



株式会社イークラフトマン 代表取締役
新山 将督

○イークラフトマンの紹介

- ・設立当初より、EDI を事業の中心に据えて活動してきた IT 企業

○EDI について

- ・ICT を活用した、企業間取引情報の電子化のこと
 - 情報が整理されるので、受発注双方の労務が楽に
 - 取引ミスが軽減する
- ・商流 EDI

- 見積・注文・納品・請求までの商取引の EDI
- ・金融 EDI
 - 金融機関を通じた支払・入金資金移動の EDI
- ・金融 EDI と従来の金融機関システムとの違い
 - 伝票番号や明細など、支払い対象の商取引情報を付加できる
- 中小企業庁委託事業: 中小企業金融 EDI 実証検証事業について
 - ・昨年度実施した「次世代企業間データ連携調査事業」
 - 国際標準型の商流 EDI が中小企業・小規模事業者間取引で生産性向上に寄与することが実証
 - 平成 30 年 12 月から全銀 EDI(ZEDI)が開始
 - 金融 EDI と商流 EDI をデータ連携した仕組みがあればより役立つのではないかと
 - ・「商流 EDI と金融 EDI が一つになった管理システム」の構想
 - 商流 EDI と金融 EDI が別々に存在する場合は、EDI 間の連携に人手が介在する
 - 一体になると、担当を越えて商取引から決済迄の情報が活用できる
- 北海道プロジェクトの実施
 - ・プロジェクトの特徴
 - 都市部以外の地域で商取引を行う事業者を実証対象とする
 - 地域の IT 活用啓蒙を含めた実証に取り組む
 - 実証対象事業者と親交の深い金融機関に協力してもらうことで、確実かつ安全な実証検証を行う
 - 食品系の他プロジェクト間とのデータ連携で、広域ビジネスチャンスの可能性を検証する
 - ・実証検証システムではクラウドへ決済情報がやり取りされる
 - 商流 EDI と金融 EDI が一体化しているため、入金・売上実績の記録と同時に取引明細も送信可能
 - 消込処理の自動化も可能となる
 - ・実証結果
 - 情報連携基盤を使用した場合、業務全体で 35%の削減効果が実証された
- 決済・商流情報連携基盤の普及に関する課題
 - ・プロバイダー間の連携を強め、標準化等を進めて導入・使用料金の低額化を業界として目指す
 - ・IB方式を採用した連携基盤の提供が必要となり、各金融機関との連携を密にする
 - 金融機関が提供する API 使用のシステム化を早期に実現する
 - ・経営者自らがリーダーシップを取って、社内のIT活用と人材育成を推進する意識改革が必要
 - IT人材の調達育成は、中小企業・小規模事業者だけでは難しい
 - ITコーディネータ等、経営者の目線でIT活用を提言できる、社外の人材活用も有益である

決済・商流情報連携基盤は、中小企業・小規模事業者の生産性向上に必要な経営基盤として、様々な組織団体が連携して普及に取り組む必要がある

3 講演「北洋銀行が取り組む電子決済サービス」①



北洋銀行 フィナンシャルサポート部 コンタクトセンター 主任調査役
西本 和幸

○FinTechと北洋銀行の取り組み

- ・未来投資戦略 2018 における FinTech、キャッシュレス社会の実現
- ・全銀 EDI システム(ZEDI)
 - 金・商流連携等に向けたインフラの整備
 - 「B to B」: 企業どうしの取引、「B to G」: 企業と行政の取引
- ・&Pay(アンドペイ)
 - キャッシュレス社会の実現に向けた取り組み
 - 「B to C」: 企業と消費者の取引
- ・現状の資金決済事務
 - 受発注管理と資金決済が別々に行われている
 - 請求内容に基づき、支払企業はインターネットバンキング等で振込処理を実施
 - 受取企業は振込金額と振込人名をインターネットバンキングや通帳で確認し、決済を確認

○ZEDI の活用

- ・支払企業は振込の際、振込に係る多くの情報を ZEDI 経由で受取企業に連携できるように
- ・全国銀行協会では、業界横断的に EDI を利用できるよう、主要な項目を定めている
- ・「中小企業・小規模事業者決済情報管理支援事業」に接続金融機関として参加
 - 電子決済代行業者への支援

決済事務を効率化したいと課題をもたれている企業に、ZEDI を利用いただくことを期待している

講演「北洋銀行が取り組む電子決済サービス」②



北洋銀行 フィナンシャルマーケティング部 Fintech 戦略グループ 調査役
清水 友磨

○スマホQRコード決済実証実験について

- ・実証実験は株式会社セコマ、株式会社アインファーマシーズの協力を得て実施
 - API連携により決済代金の早期回収等、効率的な接続の仕組みを可能に

○消費者アプリとレジの流れ

- ・クラウドレジで支払金額を確定し、スマホのレジアプリで金額を入力
 - QRコードを読み取り、利用者が支払い
 - 利用者とレジ双方に支払結果を通知
- ・チャージの手間が省ける
- ・オープン API 基盤を利用
 - 入金タイミングが早く、キャッシュフローで困ることがない

現金に近い形でキャッシュレス決済ができる仕組みを作ることで、普及・導入がしやすい環境を整えたサービスを提供していきたい

4 講演「2019年度の部会活動について」



札幌市 IoT イノベーション推進コンソーシアム ICT 活用普及促進部会 世話人
赤羽 幸雄

○ICT 活用普及促進部会の概要

- ・地域における先端技術の普及・利活用促進活動を担う
→Society5.0、コネクテッドインダストリー、デジタルトランスフォーメーション(DX)などの推進
- ・定例部会の開催
→年3回実施し、各会違うテーマで行った(初回は AI×IoT の話題、前回は電子決済、今回は EDI)

○平成 31 年度当初予算、平成 30 年度補正予算および札幌市の平成 31 年度予算の概要

- ・データを核としたオープンイノベーションの推進に係る予算
→AI を活用した公共事業の最適化に関する研究費
→札幌市 ICT 活用戦略推進費
- ・ICT、AI などの先端技術の活用に向けた予算が拡充されている

○今後の活動スケジュールについて

- ・来年度も引き続き定例部会を3回実施予定
→6月、12月、3月に開催(予定)
- ・札幌イノベーションセミナー
→来年度も2回実施予定
→札幌市経済ビジョンの重点分野である観光と食について実施予定
- ・IT 利活用促進事業費補助金は来年度も実施予定
→公募説明会を5月下旬に開催する方向で調整中

○新たなキャッシュレスサービスについて

- ・マイキープラットフォーム構想
→マイナンバーのマイキー部分を活用
→マイナンバーカードの共通情報基盤を利用し、行政の効率化や地域経済活性化につなげる
→個人番号は使用しない
- ・自治体ポイントの活用
→自治体独自のポイントを付与することで、地域経済を活性化させる
- ・ワンカード化の実現
→マイキーIDと利用者番号をマイキープラットフォームへ登録
→マイナンバーカード1枚で、様々なサービスを利用可能に

5 総括

- ・ 来年度第 1 回の定例会は 2019 年 6 月上旬開催予定
- ・ 第 11 回札幌イノベーションセミナーは平成 31 年 10 月開催予定（テーマ：観光）

【研究会の様様】



年度末のお忙しいところ、多数の皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。
本定例会のために貴重なお話をいただきました、各講演者の皆様に心より感謝申し上げます。

今回は、金融 EDI と商流 EDI を中心とした経営のイノベーションについてのご紹介と、地場の金融機関が発信する次世代 EDI 連携やキャッシュレスに向けての意欲的な取り組みをご紹介いただきました。

IoT や AI という言葉が一般化した現在、これらの先進技術を社会実装し活用するには、中小企業における IT 利活用の導入は避けて通ることはできません。

IT 導入補助金等の国の支援や、札幌市でも引き続き実施を予定している IT 利活用促進事業費補助金の活用により、中小企業における IT の足回りを整備することで、経営課題の解決、生産性向上、更には攻めの経営にも結び付く取組の一翼を担う役割として、今後、研究会に参加されている皆様の積極的な活動に期待しております。

次年度の ICT 活用普及促進部会にもぜひご参加いただきたく、また、札幌イノベーションセミナーにおきましては、10 月は観光に、2 月は食をテーマに開催予定ですので、幅広いお声掛けをいただきつつ、共にご参加いただきますようお願い申し上げます。

以上